新幹線開業について

質問　七戸駅に設置される新幹線の駅名を十和田七戸駅としていただきたいが、その見通しを伺いたい。

　また、自然景観だけではなく、スキーやパークゴルフ、従来行っている冬紀行など若い人々やスポーツ関係者のニーズに応える施策づくりや対応が必要と思うが、どのように考えるか伺いたい。

答弁　新幹線の駅名については、地域のＰＲや観光振興に結びつくなど基本的に広域的メリットを享受できる駅名であることが望ましいと考えることから、これまで（仮称）七戸駅活用プロモーション会議の場において駅名に十和田を組み入れてほしい旨の申し入れを行ってきた。今後も機会を捉えこの意向を伝えていきたい。

　また、観光振興を図る上で従来の見るだけの観光に加えて、自然と共存しながら現代の風潮である健康志向、体験志向にも応えていくことが必要であり、幸いにも当市には、パークゴルフ場や相撲場を初めとする屋内型、屋外型スポーツ施設が数多くあることからスポーツ振興と観光振興の両面から研究していきたい。

にぎわい特区について

質問　にぎわい特区についてどのような成果があったのか伺いたい。

答弁　今年度もよさこい夢まつり、花火大会など道路を広く活用し実施され、昨年以上の賑わいであった。

　また、商店街振興組合連合会では、多くの市民の参画により、年間を通じ、ストリートフェスタを実施しており、多くの来場者で賑わい、マスコミにも取り上げられ、中心市街地の活性化や市のイメージアップ等に大きく貢献されているものと受け止めている。

10月に行われた
ストリートフェスタのようす

産業と文化まつりについて

質問　地域審議会からの要望にある産業と文化まつりは開催されるのか伺いたい。

答弁　地域住民や地域審議会からの強い要望があることから、十和田湖地区の地元産品等の販売やＰＲを目的とした祭りを地元商工会、森林組合、農協、漁協、十和田湖ふるさと活性化公社などの各団体で検討しているが、今回は開催決定が年度中途となることから、どの団体も予算措置がなされていないため、手作りの小規模なもので十一月四日、奥入瀬ろまんパークにおいて開催する予定で進めている。

熊の出没について

質問　熊の出没件数と被害状況、また、今後の熊対策について伺いたい。

答弁　四月から八月三十一日までの出没件数は、目撃件数で五十三件、被害件数で十三件、合わせて六十六件となっている。

　被害状況は、切田地域では養蜂箱、四和地域、奥瀬・字樽部地域ではスイートコーン、その他の地域では家畜用のデントコーンに被害が発生している。

　熊対策としては、広報車による巡回、出没した場所への看板設置、チラシの配布、防災無線の活用、広報への掲載を通じて市民に周知を図っている。また、音や火薬による追い払い対策、それでも効果がない場合は箱わなによる捕獲に切り換えている。さらに箱わなの設置と併せて猟友会に依頼し、銃器による捕獲に取り組んでいる。

建設

浄化槽整備におけるＰＦＩの導入について

質問　浄化槽整備推進事業において県内初のＰＦＩシステムを採用すると聞くが今後のスケジュール、業者の選定方法、総事業費を伺いたい。

答弁　次回の議会で下水道事業設置条例や下水道条例の改正を行い、事業グループの募集事務に入りたい。募集は、公募型のプロポーザル方式の予定で、市の指名委員会に委ねたいと考えている。来年一月には事業グループを決定し、三月中に選定された事業者グループで設立される予定の特別目的会社との契約締結を終え、来年四月の事業スタートを目指している。

　総事業費は、十五年間で二十六億二千万円の事業費を見込んでいる。

瞰湖台展望台からの十和田湖

宇樽部バイパス完成後の旧道の除雪について

質問　字樽部バイパス完成後の旧道について、冬季観光の振興、通年観光を推進するために、また、新幹線（仮称）七戸駅開業対策にも除雪は必要不可欠と思うが、どのように考えるか伺いたい。

答弁　国道一〇三号字樽部バイパス開通後の旧道の管理は、引き続き青森県が行うことになっており、冬期間の安全な交通環境の確保及び限られた道路予算を有効に活用するため、十一月下旬から四月下旬までの間は閉鎖するとの通知を受けている。しかし、湖畔地区観光関係者にとって冬季観光と宿泊型観光の推進のため、歩行者のためのウォーキングやトレッキングなど主体的な取り組みの意向があることから、自然公園財団を初め、各関係機関、関係団体等と連携を取りながら、その活用について県と協議していきたいと考える。

大量のヒエ発生について

質問　高森山総合運動公園整備事業について、のり面に大量のヒエが発生しているが、原因は何か伺いたい。

　また、近隣農地への被害はないか伺いたい。

答弁　ヒエの発生は、春の融雪水により流出したのり面部分を補修した部分に多いことから、近隣から飛来したものとは考えにくく、恐らく補修した種子吹きつけの基盤材料に混入していた可能性が高いと思われる。

　近隣農地への被害については、ヒエの実が落ちる前に刈り取り作業を実施した。

　また、周辺が山林に囲まれており、ヒエの種子は風等によって遠くまで運ばれることは少なく、農地までの距離があることから、影響は少ないものと考えている。今後も細心の注意を払っていきたい。